

5歳児 事例の見方

幼児期は、それまでの体験や経験を通した子どもの姿から、その時の子どもの興味や関心を捉え、保育の活動内容を柔軟に考えていきます。そのため、幼児教育の事例では、活動までの経緯を含めた遊びや活動の流れを記載しています。幼児教育の事例から小学校教育へのつながりを見てみましょう。

テーマ・ポイントを記載

学び(自然)

7 5歳児事例

アサガオのたねを植えよう

これまでの経緯・子どもの姿

4歳児の時にさまざまな栽培(菜園)活動を経験し、世話や観察をしていたタマネギを収穫したり、夏野菜やサツマイモの苗を植えたりした時には、感じたことや気付いたことを思い思いに言葉にする姿があった。園庭に咲いているシロツメクサなどを集めて花束や冠をつくるなど、身近にある植物に興味をもっている子どももいる。

育てたい力

- 身の回りの不思議さに気付き、予想し、工夫しながら、興味や関心をもったものに集中して取り組む。(A①-⑥)
- 観察して気付いたことを伝え合ったり、図鑑などを見て植物の生長を楽しむにしたりする。

児童期を見通した工夫

- 自然などとの関わりの中で、子どもたちの気付きや発見を大切に、自然の面白さや不思議さを感じられるようにする。(B①-②)
- 興味や関心に合わせて、見る絵本、読む絵本、調べる本などを用意し、子どもが自由に選び、手に取れるようにする。(C①-⑥)

活動の様子

●遊びや活動 ※様子	●保育者の関わり ※気付き	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)と教科とのつながり
●紙芝居「あさがおアパート」を見る。 ・感想を言い合う。 *「自分たちもやってみたい」とつぶやく子どもがいる。 ●小学校の1年生からもらったアサガオの種について保育者から話を聞く。 ・1年生の取り組みを知る。 ・1年生の存在や小学校を身近に感じる。 ●種の観察をする。 ・色、形、固さ、匂いなどに気付く。 ●一晩水につける。 ・種の変化に気付いたり考えたりしたことを伝える。 ・友達の話聞く。 ●プランターに種をまく。 *これからどうなるかを予想し、クラスみんなで育てることに期待をもっている。	●植物や生き物の目線でかかれた紙芝居を用いることで、それぞれに生命があることをイメージしやすいようにする。 ●アサガオの種や生長過程に興味をもてるようにする。 ●子どもたちのつぶやきに耳を傾け、やってみたいという気持ちを引き出せるようにする。 *「何か気付いたことは言ってみよう」と投げかけることで、じっくり観察していた。 ●変化の様子に生命の不思議さや面白さを感じている姿に共感し、周りの子どもたちにも伝えていくようにする。 ●自分たちで世話ができるように水やり当番などを決め、大切に育てる気持ちをもてるようにする。	自然との関わり・生命尊重 社会生活との関わり 思考力の芽生え 言葉による伝え合い 【教科等とのつながり】 「国語」「生活」

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりなどの工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント

1年生から種をもらうことを通して、小学校を身近に感じています。また、種を植え育てることを通して、植物が種から育つ不思議さや面白さを感じています。大切に育てた経験が、小学校でのアサガオの生長を観察するといった、より深い学びにつながっていきます。

この活動までに、子どもたちは何に興味をもってどんな育ちがあるのだろうか？

架け橋期カリキュラムより抜粋
 A→期待する子ども像より
 ①→時期(5歳児4月～9月)
 ③→上から3番目の項目

活動を通してどんな力を育てたい？

- 架け橋期カリキュラムより抜粋
- この事例ならではの育てたい力

児童期を見通して、どんな環境や関わりを大事にしたらよいのだろうか？

10の姿に照らし合わせるとどんな育ちが見られるだろうか？

どの教科とつながっているのだろうか？

保育者は子どもたちのどんな気付きや気持ちを大切にしようとしているのだろうか？
 どんな関わりや配慮をしているのだろうか？

どんなことが、小学校への育ちにつながっているのだろうか？